

「薬害教材」101203 版への意見

千葉大学教授 高橋浩之

I 全体について

かなり良くなったと思います。ただ、問いかけが多すぎて、何を本当に考えて欲しいのかが曖昧になっている面があると思います。また、まだ中学生にはややレベルが高い感じがします。

II 部分について

P.1～2

- 1 イン트로での副作用の例が一つでは少ない。概念を獲得させるには、通常、多くの例が必要である。  
→さらに例を一つ二つ追加してはいかがか？
- 2 イン트로で「しかし、『薬害』と呼ばれているものは、このような副作用とは異なる社会問題のようです。」とあるが、最初から「社会問題」と答の一部を言ってしまう割に「ようです」というのでは、子どもは何をして良いのかがわからなくなる。  
→「しかし」以下を下記のようにしてはいかがか？  
「しかし、『薬害』と呼ばれているものは、このような副作用とは異なる問題のようです。単なる『副作用』と『薬害』はどこが違うのかに注目しながら、『薬害』の歴史を見てみましょう。」

P.3～4

- 1 「学習のポイント」が不明瞭である。  
→学習のポイントを下記のようにしてはいかがか？  
「1 被害者がどのようなことに苦しんできたかを整理してみましょう。  
2 被害者は薬害の原因をどのように考えているのかをまとめてみましょう。」

P.5～6

- 1 P.5において、他のページと異なり「学習のポイント」がないことが気になる。単なる形式の問題だが・・・。
- 2 サリドマイドの事例で「どうして薬の販売中止・回収が遅れたのか」を考えさせているが、その上の「当時、薬の副作用が・・・」の記述だけでは「日本がヨーロッパ各地より遅れた理由」として不十分なのではないか？  
→その理由を上欄に追加してはいかがか？

P.7

- 1 上から5行目で「みんなで考えてみてください」といいながら、「学習のポイント」に答らしきものを書いてあり、このページ前半で何をすればよいのかが曖昧である。  
→「学習のポイント」を「ヒント」に変え「私たちも将来、医薬品の製造、承認、販売、処方にかかわる可能性があるのではないのでしょうか。」「私たちにも、国、製薬会社、医療機関に働きかける力があるのではないのでしょうか」としてはいかがか？  
◆これに関しては、このヒント程度で中学生が考えることができるのかという面とすでに述べた「学習のポイント」を項目ごとに作るという体裁の問題が関連します。

以上